

早稲田大学 人間科学部 化学 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式
試験時間	90分
特徴・その他	昨年度の大問7題の出題から大問9題の出題になり問題数もやや多かった。また、メソ体や電池の問題などが再度出題されている。問題数は多いものの煩雑な計算問題はほとんどなかった。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
1	理論化学小問集合	平易な小問集合問題である。熱化学方程式の解き方に慣れていない受験生は問4の計算にとまどったか。	標準
2	気体	問6では平衡が問題になっているが条件を正しく整理できれば平易な問題であった。	標準
3	中和滴定	滴定の基本計算, 指示薬, 実験器具の使い方など基本的。	易
4	無機化学	4, 5とも無機化学の基本的な化学反応(気体の発生, 沈殿形など)で基本的。	易
5	無機化学		易
6	有機化学(化合物の立体構造)	化合物の立体構造やメソ体に関する知識も必要でやや戸惑った受験生もいたか。	やや難
7	エステル化反応の機序	エステル化反応やエステルの加水分解における反応の機序を問う設問で定番。	標準
8	単糖類	グルコースの構造を立体的に考察できることが必要。ヘミアセタールやアセタールの生成についての知識があれば対処することができた。	やや難
9	電池	リチウム電池や燃料電池などの問題。グラフをみて戸惑った受験生も多いか。しかし、設問内容は平易であった。	標準

〔総合コメント〕

大問9題で合計30問の設問による。問題の1部には解答に戸惑う問題が見受けられるが全体としてはやや易～標準レベルの平易な問題や入試の定番問題であった。合格にはかなり高得点を確保したい。また、メソ体やリチウム電池など頻出問題であり受験の準備についてはそのあたりまで手を広げて準備しておきたかった。